目黒認知症高齢者と家族の会　たけのこ会報

たけのこ広場

Vol.4 No.2 平成19(2007)年 4月25日発行　1－3月号

永澤瀧雄さんは琴の調律に興味津々　―2月2日―

琴の演奏前の調律。二台の音調を合わせる作業を永澤さんがじっと見物しています。興味の湧いたことには集中する性格なんですね。

音楽ボランティアの古澤万里子さんがフルートで参加できないかと、山口明美さんに声をかけました。宮城道雄作の名曲「春の海」です。尺八のパートをフルートで演奏してみたいという申し出です。幸い譜面もあったので、やってみようということになりました。琴とフルートのコラボレーションは、初見にもかかわらず素晴らしい出来でした。続いて「千鳥の曲」の演奏を聴き、それから「さくらさくら」「荒城の月」などを琴の伴奏で歌いました。

後日談ですが、古澤さんは世田谷で行われた、山口さんたちの演奏会にも参加。たけのこから音楽の輪が広がりました。

□

たけのこにはレギュラーのボランティアが約10人、スポットで来てくれる人たちが５グループ・約15人います。社協のボランティアセンターからの紹介が多いのですが、最近は会員のツテで直接来てくれる人も増えています。また、見学に来る人もとても多くなりました。窓を大きく開けて、いろいろな世界の人に気軽に来てもらいたいと思います。

認知症キャラバン・メイト養成研修

２月14日（水）、総合庁舎１階の会議室で、高齢福祉課主催の「認知症キャラバン・メイト養成研修」が行われました。区の職員を中心に36人が受講。たけのこからも４人が参加しました。

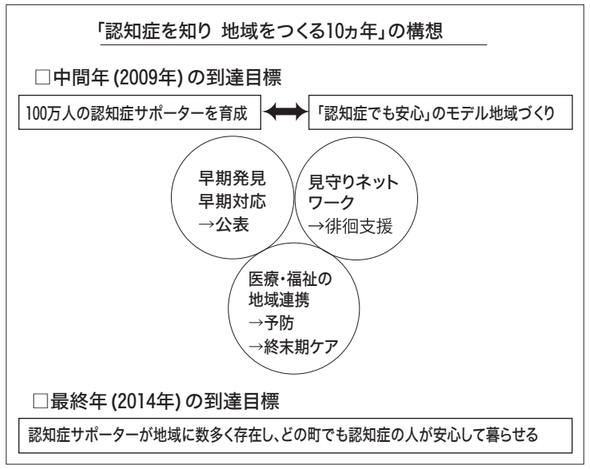
「認知症を知り地域をつくる」キャンペーン

国は、2014年にはすべての町が「認知症になっても安心して暮らせる」地域になっていることを目指して、「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンを展開しています。その中核となるのが“認知症サポーター”の育成で、認知症を理解し、支援する人（サポーター）を全国で100万人育成しようという計画です。

100万人規模のサポーターが誕生すれば、あらゆる町で認知症の見守り態勢や医療・福祉・介護の地域ネットワークが前進すると考えています。

認知症サポーター100万人キャラバン

認知症サポーターを養成するための取り組みが「認知症サポーター100万人キャラバン」で、キャラバンの講師役となる人材が“キャラバン・メイト”です。



目黒区は19年度から本格的に認知症サポーターの育成に取り組む計画です。今回のキャラバン・メイト養成研修はそのスタートに位置するものです。

キャラバン・メイトを講師役に 認知症サポーター養成講座を開催

２月14日のキャラバン・メイト養成研修は、午前９時から午後４時まで行われました。午前中は認知症という病気の特徴や患者・家族との対応方法などについての講義。講師は日本社会事業大学の下垣光氏などが務めました。午後は認知症サポーター養成講座の運営方法についてのグループワークが行われ、修了者にはオレンジ色のブレスレット“オレンジリング”が渡されました。

今後、研修修了者を講師に、区や企業、活動団体などの主催でサポーター養成講座が進められていきます。

すでに12万人のサポーターが誕生

認知症サポーターの養成講座は自治体を中心に多方面で行われており、すでに12万人がサポーター登録されています。

企業も取り組みに積極的で、三菱東京UFJ銀行では全行員を対象に、またスーパーのイオンも全従業員を対象に講座を開催する計画です。家族会や福祉サークル主催の講座も増えていくと思われます。たけのこからも４人のキャラバン・メイトが誕生しました。今後は行政と連携して、たけのこ版のサポーター養成講座の開催などが視野に入っていくことでしょう。

認知症サポーター養成講座標準教材

研修に参加して

村上歌子

村上、岡、笠原、松尾の４名が参加しました。他は保健師、社会福祉士、介護支援専門員など医療・福祉の専門職の方々で、全３６名です。

午前中の下垣先生の講義は認知症がどういうものか、現場での具体的な事例をあげながら、非常に分かりやすくまた興味深い講義でした。今までの認知症の知識がきちんと整理されて頭の中に入ったという気がしました。この講義を聞きながら、例えば小学生や大学生の方などまったく認知症がどういうものかを理解していない人に、認知症がどういう病気でどんな所に気をつけてもらいたいかなどを短時間に分かってもらうためには、いろいろと工夫が必要だと思いながら聞きました。

午後のグループワークではグループを６つ作り、３つの課題を与えられました。１つ目は「こんな時どこにつなげたら良いか考えてみよう」。自分の身近に困っている人がいたら、専門機関のどこの窓口につなげたらよいかという課題です。10の事例をひとつずつ考えてグループでディスカッションしました。課題の２つ目は「養成講座を開催する際、協力してもらえそうなグループや機関はどこだろう」。これも各自がそれぞれ思いつくままに講座を開催してもらえそうな所をあげて皆で検討しました。最後の３つ目の課題は「受講者に合わせたカリキュラムをつくる」というものでした。これは企画を皆で考えて、細部まで話し合い、企画書を作り上げていくという作業です。そして各グループの発表です。朝の９時から４時までという長い一日でしたが、皆で共同作業を行い発表した後は達成感を感じました。

研修を終えて感じたことは「たけのこ」という家族会の参加はとても貴重な存在だと思いました。この研修会の原点に帰って考えてみると、このキャラバン・メイトの研修の講師の一番の適任者は認知症の方です。本人が認知症はこんな病気です。皆さん是非こんな所に気をつけて私たちをサポートしてください。皆さんには分からないかもしれませんが、記憶をうしなっていくことがどんなことかどうぞ理解してください。その本人の一番近くで、認知症という病気の辛さ、大変さ、驚きに寄り添っているのが家族ではないでしょうか。そんなことを考えながら講座を終了してサポーターの目印のオレンジ色のブレスレット「オレンジリング」を頂いて帰路に着きました。

1月19日

青木さんがおイモをふかして持ってきてくれました。みんな、ご満悦の笑顔です。

2月16日

国立音楽院の３人が、卒業のためこの日で終わり。長い間、ありがとうございました。

3月2日

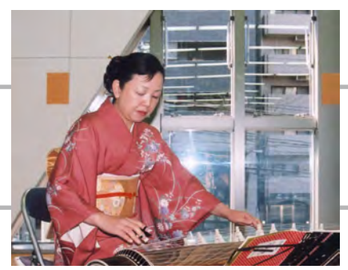
玉すだれ、ガマの油に太神楽（だいかぐら）。佐藤まさ志さんの芸は、泉の湧き出るごとく･･･。

鬼は外、福は内。たけのこのみんなに幸せがありますように。

松木さんが、きれいなお雛さまを作ってきてくれました。

2月2日

折り紙している脇で会報の製本。作業が終わった頃、琴のお二人が到着しました。琴の調べは、身体の芯でなにか反応するものがあるようです。「荒城の月」をしっとりと歌いました。



3月16日

永澤さんの作るカレンダーは、いつも整然として美しい。性格が出ますねえ。
トクさんの表情、ますます生き生きとしてきました。

トピックス

すぎなみ介護者支援講習会
２月３日　あんさんぶる荻窪

杉並区介護保険課主催の講習会。竹内弘道さんが「認知症の本人と介護者がペアで参加するミニデイ」の運営方法を中心に、たけのこの活動状況を話しました。

参加者は杉並各地の介護者の会のメンバーや介護職に携わっている人たち。杉並には上井草、阿佐ヶ谷、荻窪、浜田山、方南町など10カ所余に介護者の会があります。これらの会に介護者サポーターを派遣したり、運営のサポートを行う「杉並介護者応援団」というグループもあります。

２部の「活動事例検討会」では、介護を必要とする人と介護する人が孤立しないで地域で暮らし続けていけるにはどうしたらいいか、ということが活発に話し合われました。杉並と目黒では行政の支援のあり方や介護保険事業の取り組みに差があることが分かりました。目黒の話を聞き「目からウロコでした」との感想が聞かれるなど、情報交換の大切さが実感できました。

冬の社会教育講座 "認知症"について知ろう＆考えよう
２月25日・３月４日　中央町社会教育館

認知症の基礎知識を学び、認知症の人にとって住みやすい地域とは何かを考える、２週連続の社会教育講座。延べ約50人の区民が受講しました。１回目の講師は、新宿区で「デイサービスセンターきずな」を運営する、認知症ケア専門士で看護師の部屋紀子さん。ビデオとスライド（パワーポイント）を使って、デイサービスでの事例を中心に、認知症の人の行動パターンやケアの方法などを話しました。

２回目の講師は、いきいき福祉ネットワークセンター理事長の駒井由起子さん。日本初の若年認知症対応デイサービスを鷹番で運営しています。デイでの経験や各地の「認知症SOSネットワーク」の事例などを話しました。講義の後のグループディスカッションでは、「認知症に関する正しい知識が必要だ」「医師、町会、商店街など周囲の理解と協力が欲しい」「認知症を特別扱いせず、地域社会にとけこめたらいい」などの意見が出ました。

第３回「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーン報告会
３月３日　千駄ヶ谷・津田ホール

「認知症を知り　地域をつくる10ヵ年の構想」が2005年４月にスタートしました。2014年には、「すべての町が認知症になっても安心して暮らせる地域になっている」ことを目指しています。主に以下の取り組みを行っており、06年度の実績が報告されました。

■認知症サポーターを100万人養成
（実績）12万人のサポーターが誕生
■認知症を地域で支える活動を募集・紹介
（実績）47件の応募あり。当日８つの事例を紹介
■認知症の本人同士のネットワークの拡大
（実績）06年10月、京都で初の「本人会議」開催
■認知症に対応したケアマネジメントの推進
（実績）センター方式（※）を使ってプロと共に作るケアプラン講座の開催

「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーンの詳細は、「100人会議」のホームページで。
http://www.ninchisho100.net/

※センター方式
認知症介護研究・研修東京センターが開発した「認知症の本人と家族を主人公にしたケアプラン」づくりのやり方。サービスを受ける者が自分たちの思いを“センター方式シート”を使って、サービスのプロに伝えていこうというもの。

キャンペーンのちらし

地域密着型サービス・シンポジウム
３月５日　目黒区総合庁舎２階大会議室

新たに導入された「地域密着型サービス」について知るための介護保険課主催のシンポジウム。ケアマネを中心に約100人が参加しました。

１部では介護保険課・白井静江係長が区の整備計画を説明。その後、目黒では初めてとなる「夜間対応型訪問介護」と「小規模多機能型居宅介護」のサービス内容について、各事業者から講演がありました。

２部のパネルディスカッションはたけのこの竹内弘道さんがコーディネーター。パネラーはケアメイト目黒の下ノ本直美さん（ケアマネ）、ジャパンケアサービス（夜間対応型訪問介護）の瀬戸口信也さん、ゼロケア目黒本町（小規模多機能型居宅介護）の高橋由美子さん、グループホームみんなの家目黒の溝口雅子さん、介護保険課長の村田正夫さんが務めました。

たけのこからは松尾さん、笠原さんが参加しました。参加者からは「勉強になった」「来てよかった」などの反応が多く、このようなタイムリーな企画を今後も続けて欲しいと感じました。

参加者のアンケートから要約します。

・「なじみの場所に自宅もサービスもあるというのが地域密着」という言葉が印象に残った
・「地域密着」の意味が分かった。私の田舎では徘徊には防災無線が活用され、消防団員が見守るということが昔からされている。子どもを見守るように高齢者も見守っていくことが必要
・事業者間の連携を深め利用者に還元してほしい
・介護者の立場の意見も聞けて参考になった
・夜間対応型訪問介護のことがもう少し知りたい
・小規模多機能型居宅介護の“訪問”の部分がイメージわかなかった。今後の情報提供を期待する

フォーラム　認知症になってもみなとタウンで暮らしたい!
３月６日　港区高輪区民センター

港区の「高齢者虐待防止相談事業」の一環として行われたフォーラムです。１部は「GTホールたけのこ広場」でもおなじみ、認知症専門医の宮永和夫さんによる基調講演「認知症を知る、認知症を生きる」。２部はシンポジウム「認知症になるってどういうこと？　安心して暮らすためには」。竹内弘道さんがコーディネーターとして参加しました。シンポジストは介護家族、ケアマネ、包括支援センターのスタッフ、民生委員、訪問看護師が務め、さまざまな事例を出し合い、討論しました。

参加者は約100人。高齢の人が多く、介護や認知症に対する不安を感じさせました。最後に５地区の地域包括支援センターのスタッフが壇上に上がり、相談の窓口としての存在をアピールしました。引きこもりがちな高齢者にどうつながっていけるか、というのは都心区で共通の問題であると感じました。

目黒区からも包括支援調整課の課長、係長が出席し、議論に耳を傾けていました。

たけのこが目黒区の認知症SOS 便利帳に

国は各市区町村に「わがまちの認知症SOS便利帳」を作るよう求めています。目黒区の認知症SOS連絡先リストにたけのこが登録されました。

主な連絡先

認知症相談	目黒保健センター 碑文谷保健センター	5722-9503 3711-6446
高齢者相談	中央包括支援センター 東部包括支援センター 西部包括支援センター 南部包括支援センター 北部包括支援センター	5724-8066 5724-8030 5701-7244 5724-8033 5428-6891
サポーター	高齢福祉課	5722-9839
家族会	たけのこ	3719-5527
警　察	目黒警察署 碑文谷警察署	3710-0110 3794-0110

1－3月の活動から

■認知症キャラバン・メイト養成研修の説明

１月19日。包括支援調整課・西尾純二係長から「認知症キャラバン・メイト養成研修」の概要の説明がありました。19年度から本格的に認知症サポーターの育成に取り組んでいく方針とのこと、たけのこでも積極的に協力していくつもりです。

■お琴の演奏と豆まき

２月２日。山口明美さんと石井晶子(せいこ)さんの琴の演奏を鑑賞しました。

琴の演奏の後、青木篤三さんと泉節子保健師が鬼になり「鬼打ち式」を行いました。

次回の琴演奏は８月３日の予定です。

■介護体験を聞く「介護食の実際Ⅱ」

前回の青木篤三さんに続き、松尾うた子さんに介護食づくりのノウハウを聞きました。嚥下困難となる「要因」、それによって引き起こされる「障碍」などに続いて、望ましい食事形態や注意する食品など、具体例を挙げて説明してくれました。

■大道芸

３月２日。佐藤まさ志さんの〝和物〟芸を堪能。日本に古くから伝わる神楽(かぐら)や口上などを楽しみました。佐藤さんは７月には浅草の木馬亭で「大道芸フェスティバル」を開催します。

ひと・往来

■認知症対応デイ「デイリィ」の村松淑郎さん

１月19日。１月にオープンした認知症対応デイ「デイリィ」を運営する、(株)ウエルの村松淑郎さんが施設の紹介に訪れました。同施設は目黒本町２丁目にあり、定員12人、日曜祝日を除く10時から５時までの営業。時間延長も可能とのことです。電話 5461-4727

■TBSテレビのディレクター・村上真貴子さん

１月19日。「みのもんたの朝ズバッ！」のディレクターで、(株)ミントプロジェクトの村上真貴子さんが見学に来ました。

■コミュニティデザイン研究所

２月２日。(株)コミュニティデザイン研究所の杉本富士夫さん、松岡智美さん、白石真澄さんが見学に来ました。インターネット上に模擬「介護のまち」を開設するための取材です。

■テレビ朝日の加藤健さん

３月２日。「報道ステーション」のディレクターで、(有)メディアジャパンの加藤健さんが見学に来ました。

[ボランティア]

■国立音楽院の音楽ボランティア

一力晶子・高橋雅美・山本悠太さんが国立音楽院卒業のため、２月16日で最後となりました。卒業後も音楽ケアの仕事を続けられるそうです。

[ご逝去]

■松島まささん

２月4日に自宅で倒れ、８日、脳梗塞のため入院先で死去されました。ご冥福をお祈りします。

メディア

■介護雑誌「ほっとくる」のお助けマップ

４月号の「東京都在宅介護お助けマップ」は都内の家族会や介護者グループを紹介しています。たけのこはじめ約40のグループのアクセス方法がマップで表示されました。前回(2005年９月号)が14グループだったことを思うと、認知症介護のネットワークの広がりが実感できます。

ホームページから

■認知症高齢者を地域で支える東京会議

都福祉保健局が運営するホームページ「認知症高齢者を地域で支える東京会議」に、３月20日より、たけのこの活動が「地域での取組事例」としてアップされています。

認知症高齢者を地域で支える東京会議
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchisho/index.html

目黒認知症高齢者と家族の会 たけのこ

□ミニデイサービス＆家族会
- 第１・第３金曜日 ９時半～12時
  中目黒スクエア 3719-0694
- ミニデイ参加費
  会員無料、ビジター１回300円
  ※見学・下見はご自由に。無料です。

□年会費
- 一般会員 3,000円(家族単位)
- 協力会員 1,000円

□連絡先
- たけのこ(幹事・竹内弘道) 3719-5527
- 目黒保健センター 5722-9504
- 東部保健福祉サービス事務所 5722-9702
- 目黒区社会福祉協議会 3714-2534

たけのこホームページURL
http://takenoko.kazekusa.jp/
e-mail takenoko@kazekusa. jp